

令和5年度第3回恵那市子ども・子育て会議 会議録

日 時：令和5年11月24日（金）

午後7時～午後8時35分

場 所：恵那市共同福祉会館集会室

1. あいさつ

2. 報告

令和6年度子育て支援施策（案）について

3. 議題

（1）恵那市第3期子ども・子育て支援事業計画策定に係るアンケート調査内容について

（2）こども園認可定員・利用定員の変更について

4. その他

5. 閉会のあいさつ

■出席委員

坪井弥栄子、紀岡伸征、林千秋、駒宮博男、安田和枝、立尾清二、
堀尾憲慈、中川春花、佐々潤子、片山三咲、可児由紀子、細江幸次、渡会由美

■欠席委員

杉山淳、細川祐輔、紀藤祐元、石垣寿子、蜂谷明子、横井喜彦、渡邊みちる

1. あいさつ

■事務局：定刻となりましたので、これより令和5年度第3回恵那市子ども・子育て会議を開催いたします。

本会議の成立は、恵那市子ども・子育て会議条例第6条第2項の規定により、過半数の出席が必要ですが、20名中出席者は13名であり過半数以上の出席がありますので、本会議が成立していることを報告します。

本日は恵那市第3期子ども・子育て支援事業計画策定の委託事業者にも参加いただいております。計画に必要なアンケートについて説明いただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

また、本会議は、「恵那市附属機関等の会議の公開に関する要綱」に基づき、原則公開とし、会議録につきましても公表いたします。では、委員長よりご挨拶をお願いします。

■委員長：みなさまこんばんは。3回目を迎えました。1回目の7月は暑い時期の開催でした。前回は少しコロナも収まってきて、秋らしくなってきたという挨拶をさせていただきましたが、3回目は極端に寒くなってしまいました。そんな中、お仕事でお疲れのところ会議にご出席をいただきましてありがとうございます。少し明るいニュースとして、22日の新聞に市内小中学生等の給食費を1月から3月まで無償化ということが書いてありました。そのまま続くというのを期待しているところです。少し計算してみますと11ヶ月分で2億1千万円ぐらいということで、それは少し大変かと思いますが、やはり子育てをする中で保護者さん達のことを思うと、給食費の無償化は大きいのではないかと思います。

本日は次第にありますように、子育て支援計画に係るアンケート調査の内容について、皆さんのご意見を伺いたいと思っております。事前に配布をさせていただいておりますので各自でお目通しいただいているかと思います。忌憚のないご意見をいただき、使いやすい、わかりやすい計画になっていくとよいと思います。よろしくお願いいたします。

■事務局：ではこれより委員長の進行により議事を進めていただきたいと思います。委員長よりよろしくお願いします。

2. 報告

令和6年度子育て支援施策（案）について

■議長（委員長）：それでは議事に入ります。次第2、報告 令和6年度子育て支援施策（案）について、事務局から説明をお願いします。

〔事務局から資料に基づき説明〕

■議長（委員長）：ありがとうございました。盛りだくさんの施策があるので大変ですが、本日は報告ということでお聞きいただきました。ご意見等ありましたら子育て支援課へ直接お電話いただくなどしていただければよいと思います。

3. 議題

（1）恵那市第3期子ども・子育て支援事業計画策定に係るアンケート調査内容について

■議長（委員長）：続きまして、議題（1）恵那市第3期子ども・子育て支援事業計画策定に係るアンケート調査内容について、事務局から説明をお願いします。

〔事務局から資料に基づき説明〕

■議長（委員長）：ただいま説明がありましたが、このアンケートの内容について何かご意見ありませんでしょうか。

■委員：質問です。調査対象について、就学前と小学生の保護者さんとなっていますが、兄弟など重複しているのではないかと思います。就学前のお子さん、小学生のお子さんがいらっしゃる保護者さんへの重複については、データとしてどのように考えられるのでしょうか。一人の親に2通届く可能性があります。

■事務局：年代ごとのお子さんを抽出させていただきますので、そのなかで同じ保護者さんがいないかどうかチェックさせていただき、同じ世帯で重ならないようにお渡ししたいと思っております。

■委員：そういたしますと、母数がかなり圧縮される可能性があると思います。そのような感じで考えておられるのですか。例えば、就学前のお子さんと小学生のお子さんがいらっしゃる場合、小学生のお子さんの分だけ、というような感じで考えておられるのですか。どのような感じでしょうか。

■事務局：就学前児童のなかでご兄弟がいれば1通ですが、就学前と小学生のお子さんがいらっしゃる時には、設問が少し違いますので、2通送らせていただきます。両方にお答えいただくこととなります。

■委員：わかりました。

■議長（委員長）：母数は変わるかもしれませんが、その世帯で対象が2人いれば、件数としては変わらないということによいですね。他に何かございますか。

■委員：細かい部分になりますが、就学前の問6で世帯の収入を問うていますが、手取りなのか、総収入なのかどうかというところで皆さんが迷うかと思います。

また、問7-1で30分以内という表記がありますが、これは徒歩圏内なのか、車が使われるのかというところで、自分だったら迷うなと思ったところです。

■議長（委員長）：ありがとうございます。それについてはどうでしょうか。

■事務局：年収については総収入でお願いしたいと思っております。「近所で30分以内」は、徒歩でも車でも良いと思いますので、表記のほうもわかるようにしていきたいと思っております。

■議長（委員長）：他に何かございますか。

■委員：アンケート自体はこれでよいと思います。強いて言えば、こどもの貧困について、以前恵那市では小学生の子どもの親を対象に、^{しっかい}悉皆調査をしていると思います。公共料金の未払いがあるかないかというような質問がありました。水道料金だとか、それ以外の家賃とか、そういう未払いの現状などもその時にはあったと思います。そうした部分ももしかしたら必要なのかもしれないというのが一つです。

もう一つは、現在恵那市は25歳から29歳の女性が774人、30歳から34歳が835人で、人口ピラミッドでここだけがぐっと狭まっています。その影響で0～4歳が1,200人、5～8歳が1,800人と、ここもぐっと狭まっています。現在恵那市民であるお子さんやお母さん、お父さん方に対する施策を考えるのですが、恵那市の圧倒的な少子化、出生数がものすごく低いことをどうしたら良いかが最大の問題です。

このアンケートが終わった後で結構なので、是非25歳から35歳に、どうして恵那市を選択したのか、住み続けているのかを聞いて欲しいです。あるいは、同じ年代がどんどんいなくなっ

しまっているわけですから、なぜその方々が恵那市から去ったのかを是非とも聞いて欲しい。ここは恵那市の人口問題の肝です。ここがうまくいけば、お子さんも増えます。生まれたお子さんに対してどういう施策を講じるかはすごく重要ですが、人口が減るとともに、圧倒的な少子化傾向が恵那市の最大の問題です。それにリンクさせていくこと。今住んでいらっしゃる方にどれだけ厚いサービスを提供しても恵那市の人口問題は一切解決しない、というふうに思っております。

■議長（委員長）：ありがとうございます。その通りだと思います。私は以前結婚相談員をやっていましたが、恵那市で男性が100人くらい登録していましたが、出会いの場を、そこに登録してしまったら人任せにするところがあります。出生率が低いというのは、出会いの場がなくて結婚する気がない。全員が全員結婚して子供を産みなさいということではありませんが、家庭を持つ、家族をつくるということをしていかないと、人口減少に歯止めがかかりません。

移住定住もやっていますが、いくら移住定住を進めても、高齢者がきても子どもは生まれません。若い人たちが帰ってくる、恵那で結婚ができるというような施策を、結婚相談所に任せるのではなくて子育て支援のところからそれをもって持ち上げていかないといけないと思います。幅広い横のつながりでやっていかないと、出生率減少の歯止めがかからないのではないかなど。委員が言われたように、アンケートが終わって第3期の計画ができあがった後に、その根本的なところから考えていかなければいけないのではないかなということも常々思っております。いまご意見いただいたので、是非事務局もそういうところを次に考えていただければと思っております。

今年は何人くらい生まれていますか。

■事務局：去年は230名でした。現在生まれている推移で1年間何人かと考えると、今年は170人前後で、60人くらい減るのではないかと予想しております。少子化が進んでしまっているという危機感を感じます。

■議長（委員長）：複式学級になる危機感があります。校長先生いかがですか。アンケートの内容や、今のお話についてなど。

■委員：恵南地区勤務が多いのですが、歯止めがかからない状態です。今の勤務校に来てこの2年間程で、全校60名余りだったのが今20名減っています。さらに今後も減少が続いていますので、令和8年、9年ぐらいにはさらに10名程減って30名を割る勢いという状況です。ただ、そのことに学校関係の職員や教育委員会の皆さんは危機感を抱いていますが、保護者は、人数が減るとその分手厚くなるため、いいんじゃないか、という捉え方をされている方も結構いらっしゃいます。むしろ減ることがいいと受け取られているところがあると感じています。

■議長（委員長）：本当に危機感を持って今のご意見聞いておりました。

アンケートのことやそれに関係することで、順にお話を聞いてもよいでしょうか。

■委員：アンケートの内容を一通り読ませていただいた限りでは、質問がよくわからないというものはなかったのですが、私の価値観として「あれ？」と思った部分があります。問25「あなたはお子さんに、以下のことを行っていますか。」のアからオの質問の中に「イ. 子どもが欲しがる服を与える」とあるのですが、「欲しがる服」という表記はどうなのかな、と。必要だと思って服を買って、さすがにこれはボロボロで着られないから買い替える、ということではありますが、欲しがったものすべてを与えるわけではないので、「うーん…」と思いました。そういう意味ではないとは思いますが、少し気になったところです。

少子化に関しては、恵那市はそんなに減っているのか、とびっくりしているところです。私も何故恵那市に住んでいるかという、夫の意向で恵那市に住みたいということによって引っ越してきました。実際に住んでいるととても子育てしやすく、自然豊かなところで子育てできて良いなと思っていますが、確かに、お仕事やお給料など、そういうところでいうと若い人には魅力がみえてこないのかなと、残念だなと思います。子育てはしやすいということがどうしたら伝わるのかなと思います。難しい問題だなと思います。

■委員：アンケートについて、資料2、就学前児童保護者用アンケートの問 11-2「現在、主に利用している教育・保育事業はどのくらい満足していますか」で4、5に回答した方が、次の問 11-3で、どういったところに不満を感じているかという質問に続くのですが、どういったところに不満があるかを聞くよりも、満足している方が何に満足しているかを聞く方が、より建設的な、皆さんが何を求めているかを見やすいのではないかなということを感じました。

アンケートに関しては以上ですが、恵那市の少子化の問題について、私の友人で恵那に移住してきた方に思いを聞かせていただくと、恵那の自然とか、良い意味での不便さが居心地いいと。恵那は決して便利なところではないですし、便利を求めても都会に負けてしまうので、恵那ならではの不便さをアピールしていけばいいのではないかなと思います。

■委員：アンケートは色々な項目がたくさんありますので、このアンケートの結果を通して、よりよい恵那市の子育て支援施策について、今後の参考になるような回答を、少しでも多くの皆さんがして下さるとありがたいなと思います。

少子化に関してですが、私も恵那で育ちました。実家はとても辺鄙な山の中で、最近はお年寄りばかりでどこも空き家になってしまったという話もたくさん聞きます。そんな中で子育てをするのにどうなのかということを考えてみますと、自分の兄弟と話をしてみても、子育てをする間は便利なところに出て行って、自分が定年退職する頃になったら恵那に戻ってきたいというようなことがあります。やはり子育てをしている間も住みたいまちであってほしいなと思います。

私も自分の子どもたちが大学を出て就職という時期なので、そういった年齢の子の話の聞くと、一回は都会で働いてみたい、大学もよそへ行って、就職も外でしたいという子が沢山います。ですが最近話を聞いたら、地元で働いている子もたくさんいて、都会で働いてみたけど、戻ってきたという話も少しずつ聞きましたので、戻ってきて、ここで子育てしてくれる子も増えていくといいなと思います。広報のおめでたのところを見て、子どもが増えていくといいなと思いながらみております。

■委員：アンケートを読ませていただいて、先程委員が言われたのと同じように、不満なところより良かったところを聞くほうがいいのではないかなと思いました。

私は学童保育のところをじっくりみたのですが、利用料を安くというようなことがありますが、これ以上だと利用しにくいという方もいるかと思えます。どのくらいだったら利用したいかの質問が合ったらよいかと思いました。

本当に子どもが少なくなっていますけど、先程も人数を聞いて驚いて、危機感を皆さんが感じているのだなと思いました。恵那市の住民が、こんなに子どもが少なくなっていることを知っているか、肌で感じてくださっているのかなということをおもいました。

■委員：アンケートから少し逸れる話かと思いますが、私がかつて担任をしていた子どもたちが、今 20~30 代ぐらいです。女性より男性で地元に残っている方が結構多いという印象を持ってい

ます。その中で、実際に調査したわけではないのでわかりませんが、その男性の多くが独身です。その子たちに話を聞いたわけではありませんが、結婚に興味関心がないわけではないけれども、出会いの場がないというより、お付き合いなどをすることに対して不安を持っているとか、面倒くさい、また、ハラスメントになるのではないかというような、そういうことに臆病になっている傾向を少し感じます。それでいろいろ言われるより、一人でいたほうが気楽で安心だという感じになってきている、そんなような話をちらほらと聞きます。

こうした支援策、特にお金のことでは、その子育てのために支給されたお金が正当に使われているかどうかという部分も大事です。その後の調査も難しいと思うのですが、そういう部分もある程度、支援が効果的に機能したかどうかということの検証も考えていかないといけないのかなと思います。

■委員：こうしたアンケートで実態をつかんで、何が必要で、何を求めているか把握して、本当に子育てしやすい恵那市となっていけばいいなと思います。

園のことしかわからないので狭い話ですが、うちの園の話で、お子さんの体調が悪くて園に来られない時があります。保護者さんは仕事に行かなければならず、その方は病児保育を利用しています。病児保育を利用している方は滅多にいません。預ける先があったり、自分がお休みしたりする方が多いので、その方は必要な時は病児保育を使っていました。ある時、手術をして2週間は安静にしていけないといけないということで、その時はどうするのかお聞きしたら、会社を2週間休まれるということでした。詳しく話を聞けないのでどういう事情かはわかりませんが、本当だったら仕事に行きたいのに、お子さんをみてあげたい気持ちはもちろんあると思いますけど、病児保育がもっと利用しやすいものであれば、と思いました。

もう少し行きやすい病児保育、例えば1人何日間は無料など、利用しやすいといいなと。今、感染症も増えてきていて、インフルエンザなども流行っていると聞きます。親御さん達は発熱がないと休ませない方が多いです。そうすると園で預かって、結局クラス中に広まります。私達はいろんなお子さんをお預かりするので、集団生活でうつることは仕方ないですけど、もう少し病児保育が利用しやすい状態であれば、園の代わりにそちらに行けるのではないかと。園に行くのと同じ感覚で行ける病児保育があれば、私達もお子さんも安心だし、親御さんも安心して働けるのではないかなと、アンケートには関係ないかもしれませんが、そんなことを思いました。

■委員：質問しようかどうか迷いましたが、設問番号4の「主に子育てを行っている人」について。自分が例えばこのアンケートを受け取って家内が回答するとき、「主に母親」に回答されたら、自分は腹が立つかなと感じました。働いて帰宅して色々なことで子どもに関わっていて自分としては子育てに参画しているという自負があるけれど、そこで「主に母親」というふうにマルをつけられたら…と。この設問は本当に必要なかどうかというところで、自分の感覚と皆様の感覚では違うのかなと思いました。

先程他の委員がおっしゃいましたが、市役所の皆さんはご存知だと思うのですが、千葉県の流山市とか兵庫県の明石市、まちの規模が違うのでそのまま比べる訳にはいかないのですが、保育園の数が増えているまちは、子どもの数が増えている。子どもの数が増えているということは、親の数も増えているということですが、恵那市とどこが違うのか、どういう施策をやっている形になっているかということは、調べていると思います。どのくらいのことなら恵那でもできるのか、同じことをやっても規模が違うから全く無駄ということか、先程の委員が言われたよう

に、中途半端に色んな施策をやっても、子育て世代の人が恵那市に入ってくないことには人口増加はあり得ません。その世代が入ってくるような施策を。

今日もテレビで、3ヵ月給食費が無料になるとか、そんなテレビでとりあげるぐらいのニュースが恵那市に増えて、少々田舎だけれど、電車も最終が22時台に終わってしまうような土地だけれど、子育て施策は他市と比べて全然違う、レベルが違うとなると、移住する気持ちになる人も増えるのかなと思います。その辺りを、どのくらい市役所の人が情報共有しているのかなというところが気になったところです。

■委員：アンケート調査の項目が非常に多いので、例えば調査を実施した結果の報告として、「この項目に全体の何人の人が答えました」というのでは、ただアンケートをとっただけになってしまうので、例えばこの地区の人の片親の方がなんと答えたとか、そこまで分析しないと、アンケートに意味が出せないかなと感じました。

中津川市で子どもを育てていて、中津川市と恵那市で何が違うかと考えると、やはり特徴がないというわけではないけれど、同じようにやっていただいているのではないかなと思いました。課題は違うかもしれませんが、子育てをしている人にアンケート調査をとって、より良いことを聞くということについては、子育てをしている人が答えるので、かなりバイアスがかかった状態の集計結果が揃うと思います。恵那市の少子化という課題があるのであれば、先程からも皆さんがおっしゃっているように他と違うことも必要なのではないかと思います。

■委員：ご意見を聞いてみると、問5で配偶者がいるかどうかを聞いていますが、配偶者が居る人の収入、居ない人がどういう収入で、どうなっていくのかをみるような、フィードバックの仕方をかなり細かくしていくことを考えてしないと、このような項目の多いアンケートをとっても意味がないと思いました。配偶者の部分の設問が引っかけかりましたが、やるならばそこまでのことをやったほうが、アンケートとして充実すると思います。

皆さんが言われているように、子どもが少ないということに関して言うと、若い方で住んでもらえる方を増やすことが大事だろうと思います。たとえば住むところをつくる、市営住宅で非常に安くて素敵なおところがあって、駅に近くて、そういうところがあるから住んでみるといいというふうな。

移住定住に関して言えば、私の友人でも長野のほうから移住してきた方がいます。その人達に聞いたら、別に便利にしてほしくない、と。この自然と不便さを求めて恵那に来たという人がいました。他のまちに対抗していくようなことはなくて良いのではないだろうかと思います。この、不便で自然豊かで、学校まで遠いけれど、それを求めて移住してきたのだという人が居ます。便利さではないのかもしれないと感じます。

とりとめのない話になりましたが、市役所のなかで横に繋がって、人が来られるハード、整備をやっていくことによって人が戻ってくるのではないかと思います。恵那市ならではの不便さを売りにするもの一つかと思います。

■委員：ひとつ情報提供なのですが、数年前に恵那のNPOが、主に愛知県、名古屋の人たちに対して母数は1,000人くらいに、岐阜県に移住したいかどうかという質問をしたものがあります。20%~30%くらいの人たちが、都会を捨てて田舎に行きたいといっています。その人達が何を求めているかという、その不便さだと思います。移住をしたい人の意識が根本的に違います。私達の世代は高度成長を経験していますが、今1985年以降に生まれた人たちは、もう「成長」を

経験していないのです。1985年頃に生まれて10年経って、95年に物心ついたぐらいの、40歳手前の人たちは、根本的に考え方が違うんですね。日本人の平均所得はほとんど上がっていません。そういう経済環境で生きてきた若い人達が求めているのはお金ではなくて、もっと違うものを求めている。行政がそれをきっちりキャッチして、それに合わせた施策をしなければいけない。子育て施策に関しては、中津川市は若い人が入ってきてくださっていますが、恵那市の子育て施策がずっと素晴らしいというように、もっと進めていけばいい。根本的にはもっとイメージを変えて、かなり力を入れて移住定住に切り込まないといけないと思います。

■委員：アンケートの細かい内容については特にはないのですが、保護者の方がアンケートを受け取った時に、いろんなことをおっしゃいます。社会福祉課から障害に関するアンケートが送られてきたときにも、「どうしてうちに送られたのか」とおっしゃいます。無作為であるとこれだけ書いてあっても、その中の一人に何故自分になったのかということ保護者の方はおっしゃいます。保護者の方がアンケートのどこに困るか考えると、例えば小学生のお子さんだと、「放課後どんなところで過ごさせたいか」というところでは、こんなふうにはできるといいなという理想的があっても、実際はそんなふうにはできていないと思われるかな、ということを感じられますし、いわゆるマイノリティの方がこういうアンケートを受け取った時、どう感じてアンケートを書かれるのかなと感じる部分があります。

あとは外国籍の保護者の方がアンケートを持ってきて、これをどうしたらいいのかとおっしゃることもありました。数は全体数のなかで多くないかもしれませんが、外国籍の保護者も恵那にはたくさんいらっしゃるって、このアンケートが何の目的でされるか、このアンケートの項目をこれだけ聞いた上で、この先どんなことが期待できるか、保護者の方にどこまで伝わるかということとは感じます。

計画を作る上では数を把握しなければいけないという、アンケートの根本的な目的もあるのでそれはそれとして、個々の保護者の方の思い、アンケートを最後まで読めずに回答されるような、色々な保護者の方がいらっしゃるということも、思っているところです。

■委員：今年度生まれる方が170名ぐらいというお話で、200は居るかなと思っていたので、衝撃的な数字でした。私の持っている数字では、小学校に入る子どもの数は今年度306名だったそうです。令和元年度は430の方が小学校に入学されたということで、出生数がその時の半分以上になる。危機感を覚えるところです。関係者、全ての方が状況を理解して、恵那市がどうしたらいいのかを行政だけでなく、みなさんで考えていく必要があるのかなと思いました。

■議長（委員長）：先程委員からご意見のあったアンケートの問25の「欲しがる服」という表現と、不満足より満足を聞いたほうが良いのでは、というご意見について、事務局はどのような回答でしょうか。

■事務局：問25の「欲しがる服」のところは表現を変えさせていただきたいと思います。

問11に関しては不満のご意見もお聞きしたいので残しつつ、満足しているご意見についても追加で設問を設けたいと思います。

■議長（委員長）：ありがとうございます。今、皆さんからご意見いただいた点について、大きくは問11、問25のところでしたが、他に何かありましたら事務局にお伝えいただいて修正していただくということでよろしいでしょうか。たくさんのご意見をありがとうございました。

「恵那市第3期子ども・子育て支援事業計画策定に係るアンケート調査内容について」、承認

の方は拍手をお願いします。

[過半数拍手]

■議長（委員長）：ありがとうございます。議事は承認されました。

（２）こども園認可定員・利用定員の変更について

■議長（委員長）：続いて、議題（２）こども園認可定員・利用定員の変更について、事務局から説明をお願いします。

[事務局から資料に基づき説明]

■議長（委員長）：ただいま事務局より説明がありましたが、ご意見やご質問等あるでしょうか。

[発言する者なし]

■議長（委員長）：質問がないようですので、議事の承認を求めます。議題（２）こども園認可定員・利用定員の変更について、承認いただける方は拍手をお願いします。

[過半数拍手]

■議長（委員長）：ありがとうございます。すべての議事が終わりましたので、進行を事務局にお返しします。

4. その他

■事務局：委員長様、議事の進行をありがとうございました。その他の事項は特にありません。

5. 閉会のあいさつ

■事務局：事務局を代表して、副教育長より挨拶を申し上げます。

■事務局（副教育長）：皆さん遅くまでありがとうございます。本計画のためのアンケートは大変貴重な拠り所となりますので、有意義なご意見をいただいたと思います。

委員の言われた、強みにこそフォーカスすべき、というところは大変参考になりました。また、どうして恵那市に住むかというところと、恵那市らしさ、その強みにフォーカスして何故恵那市に住むことにしたのかというところ。施策に落とし込んでいくときにも、他市と競争するのは体力のある自治体でなければできませんし、お金ではなく、不便でもそこがいいという恵那市らしさを伸ばしていく、そこにこそ恵那市の良さがある。当然、支援策を考えながらも、そこも見出していきたいと考えております。

いずれにしましても、子育てが充実していくように今回のアンケートをしっかりと実施して参りたいと思います。たくさんのご意見を本日はありがとうございました。

■事務局：以上をもちまして、第3回恵那市子ども・子育て会議を終わります。ありがとうございました。

[閉 会]